▲採掘場跡でおやつをほお張る子供たち（子供彫刻教室）

▲軟石手掘り作業を実演する「石工友の会」の小原さん

軟石文化を後世に伝える

組みは、これからも一層広がりを見せていくことでしょう。

「芸術祭のほか、石山地区が力を入れているのが軟石文化を後世に伝えていくための活動です」と語る福士会長。

現在、さまざまな活動が展開されています。

子供彫刻教室

子供彫刻教室は、毎年夏休み、市内の小学生を集めて石山緑地で開催されています。講師は石山緑地をデザインした著名な彫刻家たちです。

子供たちは二日間かけて軟石を使った彫刻作りに挑戦。最初は慣れない手つきで悪戦苦闘していた子供たちも、二日目にはすっかり上達。「よいしょ、よいしょ」と額に汗を浮かべながらフクロウやイチゴなど自分で選んだ題材を彫り上げるそうです。

地域の子供たちへの継承

地域の子供たちに軟石文化を継承してもらう取り組みも進められています。

今年度は、石山小学校と協力して「軟石手掘り作業の見学会」と「彫刻教室」を開催。講師は石山に住んでいるかつての石工たちです。

初めて見る採掘の様子に子供たちは興味津々。「この道具は何キロくらいあるの」「石工さんたちは一日何回くらい・・・るはしを振ったの」など、たくさんの質問が出されました。

この活動を通じて、子供たちは石山発展の基礎を築いた石工たちの苦労を少なからず学んだようです。

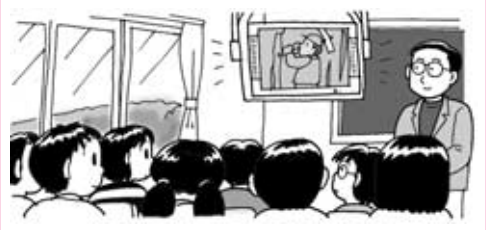
「実際に体験することで、子供たちに軟石に親しんでもらい、石山の伝統を深めてほしい」と語るのは「まちづくりの会」の岩本好正さん。

これからも、将来の軟石文化を担う子供たちを温かい目で見守り続けます。

さらに こんな事業も

▲メモリアルストーン

石切山街道と石山６号線脇の植樹ますに、地元の住民が彫刻した札幌軟石を設置。郷土を愛する心をはぐくむとともに、ここを訪れた人々に「札幌軟石発祥の地 石山」をPRします。約400個の設置を予定しています



▲軟石手掘りのビデオの作成

今や伝える者が少なくなった軟石手掘りの技術を後世に残すためのビデオを作成します。ビデオは石山小学校の教材としても使われる予定です

おめでとうございます

石山緑地芸術祭（同芸術祭運営委員会）は、今年度、以下の賞を受賞しました。

いずれも、地域に根差したユニークな芸術・文化活動とそれを支える住民のまちづくりへの意欲が高く評価されたものです。

- 北海道地域文化選奨特別賞（北海道主催）
- 2001北のくらし大賞（読売新聞北海道支社主催）

◆ ◆ ◆ ◆

石山緑地芸術祭は今年六年目を迎えます。年々協賛企業や有志の方が市内全域に広がり、今では北海道を代表する祭典にまで成長しました。

福士会長は語ります。

「人がまちをつくり、まちが人を育てる。石山の軟石文化がさらに飛躍することで、ふるさと意識を高めてもらいたい」と。

▲受賞を喜ぶ福士昭夫さん（左）と岩本好正さん（右）（１月18日。市内のホテルで）